

大会宣言

我が国の労働災害は、関係者のたゆまぬ努力により長期的には減少傾向にあるものの、今なお年間五十五万人もの労働者が被災し、千三百人を超える尊い生命が失われている。また、一度に多くの労働者が被災し、社会的に大きな関心を集める重大災害も跡を絶っていない。

また、労働者の健康を取り巻く状況を見ると、健康診断における有所見者や、仕事や職場生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者の割合は依然として高く、精神障害を発症する事案も増加している。

このような状況の中で、事業場内の危険・有害性の多様化への的確な対応や世代間の安全衛生に関するノウハウの円滑な伝承、業務請負や派遣労働者への安全衛生管理の強化など自主的な労働災害防止活動の充実強化が求められている。

いかなる時代にあっても、働く者の安全と健康はかけがえのないものである。経営トップの強いリーダーシップの下に、関係者全員が一丸となって、労働者の安全と健康の確保を最優先とする企業風土の確立に向けて最大限の努力を続けていかなければならない。

このため、リスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステムの積極的な導入・定着に努め、安全衛生教育やゼロ災害全員参加運動の充実強化を図るとともに、メンタルヘルス対策や過重労働による健康障害防止対策、健康づくり対策、化学物質管理対策の充実等により、職場の安全衛生水準の更なる向上を図る必要がある。

本年度は、第十一次労働災害防止計画の初年度であり、本大会を契機に、関係者一人ひとりが今一度心を新たにし、「安全」「健康」「快適」な職場づくりに向けて英知と力を結集し、全力を挙げて邁進することをここに誓う。

右、宣言する。

平成二十年十月二十二日

第六十七回全国産業安全衛生大会